

ドイツ学術情報 (2011 年 1 月～3 月)

< 目 次 >

- 1 ピックアップニュース …p1
 - ①公的教育支出が初めて 1,000 億ユーロを超える
 - ②エクセレンス・イニシアティヴ第 2 ラウンドの予備審査結果について
 - ③シャヴァーン大臣が「連邦立大学」に言及
 - ④ノルトライン・ヴェストファーレン(NRW)州で授業料再廃止決定

- 2 その他のニュース …p5
 - ①数字で振り返る 2010 年
 - ②2000 年と比べて外国へ行くドイツ人大学生の数は 2 倍に
 - ③ドイツの研究者が日本を支援する
 - ④学界での女性の割合がここ数年で大きく増加
 - ⑤「DAAD 友の会」が「ドイツのホスト役」として評価される
 - ⑥エラスムスプログラムによる留学は増え続けている
 - ⑦ライプニッツ協会と DAAD による新しいフェローシップ
 - ⑧DAAD が写真展“Japanese Rooms”を開催
 - ⑨ドイツの大学は世界で最も国際的
 - ⑩名古屋大学 異和行教授とミュンスター大学 ゲルハルト エルカー教授
が 2011 年オイゲン ウント イルゼ ザイボルト賞を受賞

1 ピックアップニュース

①公的教育支出が初めて 1,000 億ユーロを超える

連邦教育研究省のシャヴァーン大臣は「2010 年教育財政報告※」で、我々は教育に対して記録的な金額を投資しており、ドイツの将来性に配慮していることを確認した」と語った。

2010 年は公的教育支出が初めて 1,000 億ユーロを超え、2009 年比 40 億ユーロ弱増の 1,028 億ユーロとなる見通しである。2005 年と比較すると 18%以上、1995 年と比較すると 35%以上も増加することになる。

教育支出が公的総予算に占める割合も、ドイツが教育を重要視していることを示している。1995 年は 13.9%であったが、2010 年はすでにその割合は 18.1%となっている。

連邦政府と州政府は 2 年前に、2015 年までに国内総生産の 10%を教育と研究に支出するという目標を立てている。シャヴァーン大臣は、「2010 年教育財政報告がこの目標に一步近づいたことを示している」と説明している。連邦政府はこの連邦議会会期中に、教育と研究のために追加で 120 億ユーロを用意することを決めた。

※教育財政報告:連邦統計局が連邦教育研究省と各州文部大臣会議(KMK)の委託を受けて、2008 年より毎年作成、公表している報告書。ドイツの教育支出についての概要が掲載されている。連邦統計局ホームページ <http://www.destatis.de/>
(参考資料) <http://www.bmbf.de/press/3004.php>

②エクセレンス・イニシアティブ第 2 ラウンドの予備審査結果について

ドイツ研究協会(DFG)とドイツ学術審議会(WR)による共同委員会は、2011 年 3 月 2 日、エクセレンス・イニシアティブ第 2 ラウンドの予備審査結果を発表した。64 大学から計 227 件の応募があった(一部は複数大学からの共同申請)が今回の予備審査で 32 大学からの計 59 件を選抜した。

エクセレンス・イニシアティブとは、ドイツの学術研究を強化して国際競争力を向上させるために創設された、日本のグローバル COE プログラムとも比較される大規模プログラムである。第 1 ラウンドの予算は合計 19 億ユーロであったが、今回の第 2 ラウンドでは、2017 年までの 5 年間に総額 27 億 2,400 万ユーロの予算が投入される。

エクセレンス・イニシアティブには 3 つのプログラムがあり、大学院設立構想(グラデュエート・コレク)においては 98 件の申請中 25 件、研究拠点設立構想(エクセレンス・クラスター)においては 107 件中 27 件、大学の将来構想(エリート大学)においては 22 大学中 7 校が予備審査を通過した。

今回予備審査を通過した 59 件は、2011 年の 9 月 1 日までに詳細な計画書を提出することになり、2012 年の春に行われる最終審査で、現在第 1 ラウンドで支援を受けている機関からの継続申請と競うこととなる。第 1 ラウンドで支援を受けている機関も、2011 年 9 月 1 日までに継続支援に対する申請をする必要がある。その後、DFG や WR による審査等を経て、2012 年の 6 月 15 日の連邦政府及び州政府の担当大臣により構成される認定委員会において、2012 年 11 月以降 5 年間支援を受けられる案件が最終的に決定される。最終的な採択件数及び案件ごとの支援金額については未定である。なお、第 1 ラウンドにおいては、大学院設立構想(グラデュエート・コレク)では 39 件、研究拠点設立構想(エクセレンス・クラスター)では 37 件、大学の将来構想(エリート大学)では 9 校の計 85 件が最終審査にて採択され、2006 年又は 2007 年から支援を受けている。

○申請から採択決定までのスケジュール

- 2010 年 9 月 1 日 公募締め切り(“short proposal”による申請。64 大学から計 227 件の応募)
- 2011 年 3 月 2 日 予備審査結果発表(32 大学からの計 59 件通過)
- 2011 年 9 月 1 日 最終審査のための詳細な計画書(“full proposal”)の提出締め切り
- 2012 年 春頃まで DFG 及び WG による審査(予備審査と同じく、大学院設立構想(グラデュエー

ト・コレーク)と研究拠点設立構想(エクセレンス・クラスター)を DFG が、大学の将来構想(エリート大学)は WR が担当する)

2012 年 6 月 15 日 DFG と WG の共同委員会による審査等を経て、認定委員会において採択案件の最終決定

○予備審査を通過した大学

予備審査を通過した大学名は次の URL に掲載されている。

http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2011/pressemitteilung_nr_08/index.html

その内、大学の将来構想(エリート大学)の予備審査を通過した大学は次の 7 校である。

ベルリン・フンボルト大学、ボーフム大学、ブレーメン大学、ドレスデン工科大学、ケルン大学、マインツ大学、チュービンゲン大学

また、第 1 ラウンドにおいて大学の将来構想(エリート大学)に採択された大学は次の 9 校である。

ベルリン自由大学、アーヘン工科大学、フライブルク大学、ゲッティンゲン大学、ハイデルベルク大学、コンスタンツ大学、カールスルーエ工科大学、ミュンヘン大学、ミュンヘン工科大学

(参考資料)

http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2011/pressemitteilung_nr_08/index.html

<http://www.zeit.de/studium/hochschule/2011-03/exzellenz-initiative-vorentscheidung>

(関連記事)

「ぼんぼん時計第 14,15 号」

http://www.jsps-bonn.de/fileadmin/bonbon_dokei/BonBonDokei14_15.pdf

「ぼんぼん時計第 18 号」

http://www.jsps-bonn.de/fileadmin/bonbon_dokei/BonBonDokei18.pdf

「ぼんぼん時計第 29 号」

http://www.jsps-bonn.de/fileadmin/bonbon_dokei/BonBonDokei29gaku.pdf

③シャヴァーン大臣が「連邦立大学」に言及

エクセレンス・イニシアティブが終了した後で、優れた研究施設の長期的な資金調達をどうするかという議論が始まり、遅くとも、そのときに「連邦立大学」の開設場所をどこにするかが議論のテーマになるだろうと、シャヴァーン連邦教育大臣は 2 月 13 日ベルリーナー・モルゲンポスト (Berliner Morgenpost) 紙に語った。(※ドイツのほとんどの大学は州立であり、予算の大半を州政府が負担しているが、「連邦立大学」を設置するとは、連邦政府が特定の大学を重点支援するという意味。)

シャヴァーン大臣の中期的に連邦立の大学を開設してもいいと考えているというこの発言は、連立政権内でも不快なものとして受けとめられ、これに対して様々な発言があった。

ヒャエル・クレッチマー氏(キリスト教民主同盟)は、「(大学の分野における連邦と州の提携に関して)新しい構造について議論する代わりに、憲法の枠内で可能なことをすることが必須だと思う。憲法の枠内でできることはまだいっぱいある」と批判した。

ベルリンの学術評議員、ユルゲン・ツォルナー氏(社会民主党)はシャヴァーン大臣の意見を支持し、2017 年にエクセレンス・イニシアティヴが終了する前の早い段階で連邦と州によるその後の先端研究の共同助成について熟考されるべきだと述べた。

社会民主党議員団の教育政策のスポークスマン、エルンスト・ディーター・ロスマン氏はシャヴァーン連邦教育大臣を、その提案は今すべきことをしないでおくための手段だと非難した。だから、大臣は、大学に入学希望者が殺到することが見込まれているのに、それに対して適切に対応し、大学協定をその事態に適応させることを拒んでいる。徴兵制停止に伴い大学入学希望者数が当初の予定よりも早期に増加することが見込まれており、その分新入生の学生定員枠をさらに拡大しなければならないのに、そのための資金を前もって支給しようとしめない。また、学生定員枠拡大のための連邦資金は 2015 年までその使用が強く制限されているが、その規定を緩和しようとしないとロスマン氏は説明する。

緑の党の連邦議会議員団の見解によると、シャヴァーン大臣の考えは短絡的過ぎるという。シャヴァーン大臣は将来どのようにして貧しい州にある有能な学術施設を発展させればよいのかという問いには答えないと緑の党の学術政策のスポークスマン、クリスタ・ザーガー氏は述べた。

左翼党のペトラ・ジッテ氏はシャヴァーン大臣を批判し、資金の乏しい州立大学の隣に連邦立大学などはいらない、問題は連邦から助成を受けることになっていない大学に何を提供するのかという点であると述べた。

学生の統括団体、学生自由連合の見解によると、連邦はもっと大学に資金を出すべきであるという。しかし、その際、全大学の需要に応じた、運営の基盤となる資金調達でなければならないと学生自由連合の理事、モスカ・ティマー氏は強調した。

似たような内容のことを青年社民党員の連邦理事アナ・シュライバー氏も述べた。

ノルトライン・ヴェストファーレン州政府は卓越した研究を助成するための連邦立大学の開設を拒否している。研究と教育、幅広い分野の助成と先端研究助成を分けるのは合理的ではないと州の学術大臣、スヴェンヤ・シュルツェ氏(社会民主党)はデュッセルドルフで述べた。それゆえ、シュルツェ氏は連邦資金をドイツで唯一のハーゲン通信大学に使いたいと考えており、その第一歩として連邦は毎年約 350 万ユーロの資金を調達すべきだ、連邦立大学について熟考する代わりに、入学希望者が非常に多いため規模を至急拡大しなければならない大学をもっと援助すべきだと 2 月 14 日デュッセルドルフで要請した。この冬学期に通信大学の新入生の数は前年比 75%も増加した。目下州は、学生の 3 分の 2 は他州に住んでいるにもかかわらず通信大学の費用の 3 分の 2 を負担している。

(参考資料)

dpa-Dossier Bildung Forschung Nr. 08/2011 21.Februar 2011

④ノルトライン・ヴェストファーレン(NRW)州で授業料再廃止決定

ノルトライン・ヴェストファーレン(NRW)州議会は 2 月 24 日、連立与党の社会民主党(SPD)と緑の党が、左派党の支持を得て、2011/12 年度の冬学期から大学の授業料を廃止することを決定した。

NRW 州では、前政権(キリスト教民主同盟(CDU)と自由民主党(FDP)の連立政権)が大学の授業料徴収を導入し、2006/2007 年度の冬学期から州内の公立大学は 1 セメスター当たり 500 ユーロを上限と

した授業料を徴収することができるようになり、現在では 37 大学中 32 大学が授業料を徴収している。州内の大学及び専門大学※には、授業料廃止の代わりに州予算から 1 年当たり計 2 億 4,900 万ユーロが交付されることになる。

すでにヘッセン州とザールラント州は授業料を廃止しており、NRW 州はこれに続いた。これで授業料を徴収しているのはハンブルク州、ハーデン・ヴェルテンブルク州、バイエルン州、ニーダーザクセン州のみとなったが、先に行われた市議会選挙で SPD が勝利したハンブルクでも、授業料が廃止される見通しである。

※専門大学(Fachhochschule): 大学(Universität)に比べて専門的な職業教育に重点を置いた高等教育機関。

(参考資料)

Die Welt (2011.2.25)

dpa-Dossier Bildung Forschung Nr. 08/2011 21.Februar 2011

(関連記事)

「ぼんぼん時計第 29 号」

http://www.jsps-bonn.de/fileadmin/bonbon_dokei/BonBonDokei29gaku.pdf

2 その他のニュース

①数字で振り返る 2010 年(28 Dec 2010)

大学入学者数が過去最高に:2010 年度の大学入学生数は史上最も多く、約 44 万人であった。2005 年は 36%であった大学進学率も、2009 年には 43%、そして 2010 年には 46%となった。

連邦奨学金(BAföG)の増額:2010 年 10 月 1 日から連邦奨学金の支給額が 2%引き上げられ、最高支給額は月額 670 ユーロとなった。30 歳という年齢制限も修士課程においては 35 歳に引き上げられた。合計で 100 万人以上がドイツで連邦奨学金(BAföG)や職業訓練向上支援法による奨学金(Meister-BAföG)を受け取っている。

「ドイツ奨学金」の創設:新たに「ドイツ奨学金」が創設されることとなり、2011 年夏学期から、家庭の経済状況に左右されずに特に優秀な学生 1 万人に対して、月 300 ユーロの奨学金が支給される。中期的には大学生の 8%にあたる 16 万人に対して支給されることになる。

大学の強化:来年度、再来年度と、幾つかの大きな州では学校の就学年数が 1 年短縮される(大学入学資格を得るための標準的な就学年数(小学校(Grundschule)からギムナジウム(Gymnasium)までの就学年数)が現行の 13 年から 12 年に短縮される)ため、ギムナジウムを卒業して大学入学資格を取得する者の数が倍増する年度があること、また兵役の廃止※が計画されていることから、新規大学入学者が大幅に増加すると見込まれている。大学の質を保ち、入学希望者に対して門戸を開いておくために、連邦政府と州政府は「大学協定」を締結し、2011 年から 2015 年までに大学定員を 27 万 5,000 人分増加させることとしている。連邦政府は、大学協定の「新しい学生定員の設置」「大学での

研究の改善」の 2 つの柱に続き、3 番目の柱「大学教育の質改善に関する協定」に、2020 年までに 20 億ユーロを充てることとした。

自然科学分野への関心の増大:MINT 分野(Mathematik(数学)、Informatik(情報科学)、Naturwissenschaften(自然科学)、Technik(工学))に対する関心が高まっており、工学系への入学者数だけでも、2006 年の約 8 万人から 2009 年の 11 万 3,000 人に増加している。

※ドイツには徴兵制があり、18 歳以上の男性は兵役を果たす必要があるため、ギムナジウム(Gymnasium)を卒業し大学入学資格を得ても、原則的にすぐに大学での勉強を開始せずに兵役に従事していた。兵役の期間は徐々に短縮されており、2010 年 12 月からは 6 ヶ月間である。2011 年から徴兵制が廃止されることになり、2011 年 3 月より本人の意思に反して徴兵されることはなくなり、志願者のみの参加となった。

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/3022.php>)

②2000 年と比べて外国へ行くドイツ人大学生の数は 2 倍に(7 Jan 2011)

連邦教育研究省、大学情報システム社(HIS)、ドイツ学生互助会(DSW)が 2011 年 1 月 7 日に「高等教育の国際化」という報告書を発表した。この報告書は 2009 年夏に行った 1 万 6,370 人の学生に対する経済状況と社会状況へのアンケートに基づいている。

この報告書から、ドイツの大学生は他の先進国の大学生と比較すると本質的に活動的であり、2000 年と 2008 年の数字を比較すると、外国に滞在しているドイツ人学生は 5 万 2,200 人から 10 万 2,800 人へと 2 倍近く増えている。中国、インド、韓国からのみ、より多くの大学生が外国に出て行っている。

外国へ行く学生の 4 分の 3 は親からの金銭的援助を受け、半分以上は留学前もしくは留学中にアルバイトをし、60%は何らかの奨学金、30%は Auslands-BAföG(留学やインターンシップで外国に行く学生のための連邦奨学金)を受給している。

合計すると、15%の学生が大学での授業の一部を外国で受けたり、インターンシップ、語学研修など、学業に関する外国滞在を既に経験している。留学先で人気があるのはスペイン、フランス、英国であり、インターンシップだとアメリカ、英国、フランスで行われることが多い。また、外国に行くのは男子学生より女子学生が、専門大学の学生より大学の学生の方が多い。

学生が外国へ行くかどうかは、その学生の出身家庭の社会状況に大きく左右される。両親が大学や大学に近い学歴を持ち、収入の多い家庭出身の学生と、教育と縁遠く、収入の少ない家庭出身の学生とを比較すると、前者のほうが 2 倍近く多く外国に行っている。

一方、ドイツの大学で勉強している外国人留学生数もますます多くなっており、その数は 1997 年の 10 万 33 人から 2008 年の 24 万 5,522 人へと増加した。そのため、ドイツは世界の中でもアメリカ、英国に次ぎ 3 番目の留学生受け入れ国となっている。連邦教育研究省のシャヴァーン大臣は、「ドイツの大学で勉強した後、母国に帰った学生は、大抵は帰国後もドイツと強いつながりを持っており、それが非常に重要なことである」と言う。外国人留学生の出身国としては中国が最も多く、ロシア、ポーランド、ブルガリア、トルコと続く。

外国人留学生在が大学生活を送るにあたって直面する困難なこととして挙げているのは、ドイツの大学の履修システムの情報が少ないこと、次に金銭的なこと、そしてドイツ人の学生とのコミュニケーションが不足していること、といったことが続いている。

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/3025.php>)

③ドイツの研究者が日本を支援する(16 Mar 2011)

日本の地震からの復興に対して、国立レオポルディナ学術アカデミー、ドイツ工学アカデミー、ベルリン・ブランデンブルク学術アカデミーが中心となり、ドイツ国内の多くの研究機関が、健康、地震研究、エネルギーの供給、原子炉の安全や放射線防護の問題といったあらゆる支援が望まれる領域での鑑定に協力する用意があることを表明した。2011年3月15日に、連邦教育研究省シャヴァーン大臣がドイツ研究センターとの会議後に公表した。

連邦教育研究省は、これに参加する研究機関が講ずる必要な緊急措置のために500万ユーロを用意した。「今は北日本の被災した地区の人的支援が絶対的に優先ではあるが、同時にすでに始まっている復興に対しては専門知識が必要不可欠となる。ドイツは現場で求められる研究者に対して、考えつく限りのあらゆる支援を与える。それに伴い必要となる経費を負担する用意ができてい

る。」とシャヴァーン大臣は述べた。

シャヴァーン大臣は近く、学術、研究、専門政策の首脳会議を招集する。協議内容の中心は、日本の原子炉事故によりドイツの原子力発電所の運転期間延長が取りやめになったが、その後のドイツ、ヨーロッパ及び世界中のエネルギーシステムの転換に対してどのような結論を見つけるべきか、ということになる。

Kooperation International HP

(<http://www.kooperation-international.de/countries/themes/nc/info/detail/data/54646/>)

④学術界での女性の割合がここ数年で大きく増加(24 Feb 2011)

ドイツでは、大学教授、大学教授資格取得者、大学院生及び大学生といった学術界に占める女性の割合がここ数年で目に見えて増加している。大学教授の女性の割合は2009年には18.2%となったが、これは対2005年比4%、対1995年比10%の増加である。2009年には博士号を取得した者に占める女性の割合は44%となったが、2005年は39.6%にすぎなかった。同じ時期に、大学教授資格取得者の女性の割合は13.8%から24%に上昇した。大学修了者の割合については、1995年は41.6%であったが、現在では51.6%まで上昇し、女性のほうが少し上回るまでになった。

教授のポストに占める女性の割合が上昇したのは、BMBFの「女性教授プログラム」の貢献も大きい。このプログラムの枠組みで、2007年から260名の女性教授が採用された。その内30%がMINT分野(Mathematik(数学)、Informatik(情報科学)、Naturwissenschaften(自然科学)、Technik(工学))であった。また、学生に占める女性の割合が増加したのは、連邦奨学金の増額や支給枠組みの変更によるところも大きい。

連邦教育研究省のシャヴァーン大臣は、「これまでの成果は喜ぶべきであるが、まだ目標には到達していない。私たちは女性の能力や創造力を必要としている、それは指導的立場においてもである。これは単に機会均等だけの問題ではない。」と強調している。

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/3046.php>)

⑤「DAAD 友の会」が「ドイツのホスト役」として評価される (10 Feb 2011)

ドイツ人の DAAD 元奨学生と同窓会である「DAAD 友の会」が、「アイデアの国ドイツー365 の拠点」コンテストで入賞した。このコンテストには、2010 年 12 月に約 2,600 件の応募があった。外国人留学生に対してドイツ文化に親しみを持たせ、それにより留学生がドイツに順応するのを手助けした、というのが友の会の受賞理由である。それらの活動を通して、友の会は民族間のコミュニケーション促進に貢献したというだけでなく、学術拠点としてのドイツをより強化した。

友の会はドイツ全土の約 40 の大学で、外国人の DAAD 奨学生のために文化的行事その他課外活動をボランティアで企画・運営している。1,300 人の会員を有するこの団体は、今年創立 30 周年を祝う。

「アイデアの国ドイツー365 の拠点」は、連邦政府と経済界により主導されたもので、ドイツ連邦産業連盟(BDI)が代表を務めている。ヴルフ大統領の後援とドイツ銀行の協力の下で、ドイツの肯定的な印象を与えたり、経済及び学術の拠点としてのドイツをより強化する 365 のプロジェクトやアイデアを、2006 年から毎年表彰している。

DAAD HP (<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2011/16505.de.html>)

⑥エラスムスプログラムによる留学は増え続けている (10 Mar 2011)

2009/10 年度においては、EU の「エラスムスプログラム」によって 2 万 4,000 人以上のドイツ人大学生がヨーロッパ内 30 ヶ国でカリキュラムの一部を修了した。それに加えておよそ 5,000 人の大学生が、外国で職業訓練を行った。合計すると約 2 万 9,000 人の学生がエラスムスプログラムの支援を受けており、前年度と比べ 1,000 人増え、過去最高の数字となった。さらに同プログラムの下で、2,805 人のドイツ人教員が外国の大学で講義を行い、525 人の大学の代表者が外国で継続教育を実施することができた。これは DAAD が連邦教育研究省(BMBF)からの委託を受けて実施した調査により明らかになった。

エラスムスプログラムとは、EU 圏内の流動性を高めるプログラムであるが、2007/08 年から新しい段階に入っている。このプログラムの下で、3 ヶ月から 12 ヶ月間の留学や外国での職業訓練を行うことができるが、EU27 ヶ国に加え、アイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー、トルコを加えた 31 ヶ国が参加している。将来的にはクロアチアやスイスも加わることになる。

DAAD はエラスムスプログラムの枠内で、2009/10 年度は合計 4,800 万ユーロの予算をもとに、留学に対しては月額平均約 206 ユーロ、外国での職業訓練に対しては月額平均約 354 ユーロの支援を行った。

DAAD HP (<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2011/16709.de.html>)

⑦ライプニッツ協会と DAAD による新しいフェローシップ (22 Mar 2011)

ライプニッツ協会と DAAD が、新しい国際フェローシッププログラム“Leipniz-DAAD-Research Fellowship-Programme”を始めた。このプログラムは、優秀な外国のポストドクに対して、87 あるライプニッツ協会の研究所の内のひとつの研究所で 1 年間研究するためのフェローシップを提供するものである。採用枠は 15 名で、第 1 回目の応募締切は 2011 年 6 月 20 日である。

DAAD HP

(<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2011/16762.de.html>)

⑧DAAD が写真展“Japanese Rooms”を開催(17 Mar 2011)

DAAD は、30 年以上も前から東京事務所を設置し日本と密接な関係にあるが、DAAD の日独交流 150 周年関連行事のオープニングイベントとして、写真展“Japanese Rooms”を 3 月 24 日から 4 月 28 日までボン市にある学術センターで開催している。展示されているのは、元 DAAD 奨学生で、現在芸術家、デザイナーとして活動しているスヴェン イングマー ティース(Sven Ingmar Thies)氏が、東京、ベルリン、上海、ニューヨーク、ウィーンで撮影した 82 の日本人が日常生活を送っている部屋の写真の一部で、日本人でも簡単に見ることができないものである。

この写真展は、2011 年 10 月 17 日から 10 月 23 日まで、東京の OAG-Haus Tokio でも開催される。

DAAD HP

(<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2011/16738.de.html>)

⑨ドイツの大学は世界で最も国際的 (11 Mar 2011)

ドイツは大学教育の国際化において、オーストラリア、イギリス、中国を抑えて1位であるという結果が、ブリティッシュ・カウンシルの調査で明らかになった。アメリカはマレーシアに次ぐ 6 位であった。このランキングは、学生の受け入れ、卒業生の質と評判、外国人留学生への支援、自国の学生に対する留学や外国での研究の奨励といった観点から、11 ヶ国の大学教育システムを比較したものである。

イギリスの国際的な教育文化機関であるブリティッシュ・カウンシルによると、ドイツの大学は近年、外国人留学生にとって明らかに魅力が高まっているという。ひとつの理由として、英語で受けられる授業、さらに英語のみで修了できる履修課程が増えていることが挙げられる。更に、授業料が極めて安く、ドイツ人学生より高いということはない、ということも挙げることができる。調査の中では、外国人留学生がドイツで働くことが許されている法律も有利だと強調されている。一方で、ドイツ人学生はヨーロッパ内でもっとも流動的である。連邦教育研究省(BMBF)は、ドイツ人学生の半数が在学期間中の一部を外国で過ごすべきであるという目標を設定しているが、これがドイツ人学生の流動性を高めるのに貢献している。

DAAD HP

(<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2011/16721.de.html>)



- ⑩ 名古屋大学 巽和行教授とミュンスター大学 ゲルハルト エルカー教授が 2011 年オイゲン
ウント イルゼ ザイボルト賞を受賞(4 Apr 2011)

DFG HP

(http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2011/press_release_no_11/index.html)

ぼんぼん時計第 31 号

日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office

Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)

Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)

Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777

www.jsps-bonn.de